

**第7回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成24年度時点のものです。

名 称	農事組合法人 サンファームしらたか
所在地	白鷹町

1. 取組の背景・経過等

農事組合法人サンファームしらたかは、普及センターの指導の下、準備学習会を重ね平成10年1月に当法人を設立した。水稲栽培では、平成17年より特別栽培（減農薬栽培）に取り組み、栽培履歴（肥料・農薬の名称、使用回数、投入量等）の記帳を行っている。消費者に安全・安心な農産物を直接届けたいとの思いから、「コシヒカリ」から取り組み「つや姫」と特別栽培米の取り組みを拡大している。現在は約50haの水稲作付けとなり「はえぬき」や「ヒメノモチ」、伝統の「ササニシキ」も手掛け農薬・化学肥料の削減や環境負荷の少ない農業に取り組み、「エコファーマー」の認定も受けている。

また、平成12年に認定農業者として町の認定を受け、地域農業発展のため、環境保全型農業に取り組んでいる。

地域との協力・連携にも力を入れており、土地改良区の呼びかけに賛同、地元の鮎貝小学校の環境体験農業に協力し、「田んぼの学校」を共催。田植え・稲刈り作業などを通して子どもたちに「食」「命」「農業」の大切さを伝えている。



2. 農業経営・技術と取組姿勢

(1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫

当法人設立当初より「直播栽培」に取り組み、使用育苗資材の軽減を図ると共に、平成17年より「特別栽培米」を取り組み、減農薬・減化学肥料の栽培方法を取り入れ技術レベルの向上を目指している。

(2) 家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用使用済プラスチック等のリサイクル利用の実践と工夫

約4haのホールクロープサイレージの取り組みや、稲わらの白鷹町内の畜産農家への供給を行い、出来上がった堆肥を使用する循環型農業にも取り組んでいる。

また、精米販売時に出てくる米糠を利用しての堆肥作りに取り組み、メロン栽培ハウスの土作りにも取り組んでいる。

(3) 温室効果ガスの排出の抑制、生物多様性の保全等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫

水稲栽培において圃場からのメタンガス発生を低減を計る意味からも、栽培期間中の中干しの徹底を計っている。

(4) 耕畜連携・飼料自給率向上の実践

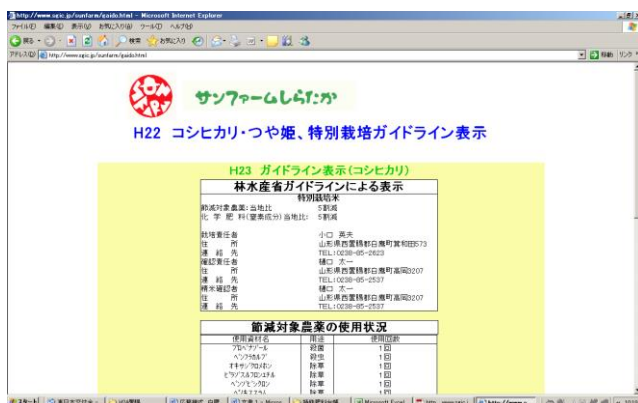
約4haのホールクロープサイレージの取り組みや、稲わらの白鷹町内の畜産農家への供給を行い、出来上がった堆肥を使用。



ホールクロープサイレージの収穫風景

(5) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

現在約25haの特別栽培米の取り組みとなっているが、消費者の理解を得ながらの直接販売を行っており、年々販売数量は増加し、特別栽培米の取組み面積も増えている。



HP上に特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づく表示事項を掲載

(6) 農業者等の交流、研究活動等を通じた新たな知見、情報の収集

行政・JA等関係機関との連携のもと、各種情報収集、首都圏・関西圏での各種イベント等に参加し、特裁米を含む販促活動・消費者の意見・情報収集を行っている。

また、各種視察・研修はもちろんの事、可能な限りの視察受け入れも行っている。

3. 周辺等への影響力・普及力

(1) 創造性・地域的な影響力

町内中学生の職場体験の受け入れ、「田んぼの学校」での小学生の農業体験の協力などを行うことにより、地域の若者に農業の良さなどを伝えている。これらの活動などもあり、地域の担い手である当法人には、現在20代の若手構成員が3名（全体では10名）おり、若者に対する農業のイメージアップの一役を担っている。

また、特裁農産物等の安全・安心な農産物の生産に力を入れている。



「田んぼの学校」のPR看板



小学生による体験田植え

(2) 消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じて消費者等の環境保全型農業に対する理解と関心の増進に貢献

当法人パンフレット・ホームページ・ブログ等で農作業の様子などの情報発信、首都圏での各種イベント参加での情報発信・収集。地元の鮎貝小学校の環境体験農業に協力し、「田んぼの学校」への協力。

(3)地域の農業資源の保全と活性化

荒廃桑園を開墾して「啓翁桜」の栽培に取り組み、冬期間の仕事として出荷している。植栽面積も徐々に増えており、遊休農地解消にも貢献している。



冬に咲く啓翁桜



啓翁桜の出荷風景

(4)地場農産物の利用拡大、安全・安心への取組の実践

福島第一原発の放射能事故に伴い、平成23年産米より山形県が実施する放射性物質検査への協力、白鷹町の支援を受けた当法人独自の調査機関への調査依頼・消費者への調査結果の情報提供を行う事により安全安心をPRしている。

4. その他特記事項

米の各種食味コンクールにも積極的に参加し、過去、最優秀・優秀賞などを受賞している。

当法人で作付している特別栽培米「コシヒカリ」と「はえぬき」が、県独自の「山形基準」【(高い品質)(安全性・安心感への配慮)(山形の自然、歴史・文化の継承)(山形の技術・技法の伝承)(環境への配慮)】をクリアし、平成19年度に山形セレクションに認定されている。

5. 取組の成果と展望

米をはじめ、枝豆・メロン・スイートコーン・啓翁桜など農作物の販売実績は、その安全性や安心感をホームページなどを通して消費者にお知らせすることにより着実に増加傾向にある(リピーターも増えている)。

今後は、首都圏・関西圏でのイベントにこれまで以上に積極的に参加し、安全安心な農作物のPRに努めるとともに、田んぼの学校など地域の活動にも協力し、新たな後継者育成活動にも力を入れていく。

そして、「美味しく、安全な農作物をつくりたい、それを消費者に届け、喜んでほしい」という当法人の思い(原点)の達成へ向けてこれからも日々邁進していきたい。



組織のロゴマーク

